

令和2年2月12日

保護者 様

佐世保市立吉井南小学校
校 長 松瀬 伸吾

令和元年度 学校評価アンケート集計結果について

余寒の候、皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より、本校教育活動にご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、先般行いました学校評価におきましては、ご協力いただきありがとうございます。いただいたアンケートを集計し、学校改善のための方針を立て、先日行いました「学校支援会議」におきまして委員の皆様へ学校経営の改善策についてご意見をいただいたところです。

その結果を踏まえ、集計結果と改善策を以下のとおりご報告いたします。今後とも本校教育活動にご支援賜りますようお願い申し上げます。

建設的なご意見、励ましのご意見を多数いただき心より感謝申し上げます。

○ 評価の点数は、高い評価から4、3、2、1の点数で計算をしています。したがって、標準の点数は2.5点になります。

○ 児童のアンケートは、平易な言葉遣いで行いました。

○ 対象者、内容によっては実施していない項目もあり、斜線で表しています。

○ 総数は、児童197名、保護者114名、地域の方8名、教職員14名です。

		平均				平均	前年
		地域	保護者	職員	児童		
1	学校の指導方針は共感でき、特色ある教育活動に満足している。	3.3	3.4	2.9	3.4	↓ 3.3	3.4
2	学校は人権教育を基盤にし、子供の命の大切さや思いやりの心を育てようとしている。	3.5	3.5	3.3	3.6	↓ 3.5	3.6
3	吉井南小学校の先生は、子供を理解し、わかりやすい授業をしようとしている。	/	3.4	3.3	3.4	3.4	3.4
4	吉井南小学校の先生は、集団生活でのきまりやマナーを適切に指導している。	3.4	3.5	3.6	3.6	3.5	3.5
5	吉井南小学校の先生は、子供や保護者の相談に誠意を持って応じている。	/	3.5	3.7	3.4	3.5	3.5
6	吉井南小学校の先生は、地域の行事を理解し、協力的である。	3.1	3.5	2.7	3.2	↓ 3.1	3.2
7	子供たちは、好ましい友達関係があり、楽しく登校している。	3.3	3.5	2.8	3.4	↑ 3.3	3.2
8	子供たちは、返事や明るいあいさつをしている。	2.5	3.2	2.2	3.2	↓ 2.8	3
9	学校は安全に気を配り、子供の学びを支える環境を整えている。	3.6	3.5	3.1	3.2	↓ 3.4	3.6
10	学校及び学年は、地域の教材や人材を生かした教育活動を行っている。	3.7	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6
11	学校や学級の様子を通信等で知らせ、連絡や意思疎通を適切に行っている。	3.3	3.5	3.3	3.6	↓ 3.4	3.6
平均		3.2	3.5	3.1	3.4	↓ 3.3	3.4

※「↑」は、前年度と比べてプラス値のもの。「↓」は、前年度と比べてマイナス値のもの。

令和元年度学校評価結果概要

1 概要

- 前年度比、11項目中6項目において低下している。
- 今回の結果の平均値が3.3と、昨年度を0.1下回る。
- 質問事項10「学校及び学年は、地域の教材や人材を生かした教育活動を行っている。」については、児童、保護者、地域、教職員、いずれの評価者においても調査平均2.5を1ポイント以上上回っている。

2 課題の焦点化に向けたデータ解析の視点

- (1) 平均値2.5を下回る項目。
- (2) 前年度比で低下傾向の項目。
- (3) 今年度の平均数値(3.3)から、大きく(0.3ポイント以上)落ち込んでいる項目
- (4) 各評価者による結果に大きな差(0.3ポイント以上)が見られる項目。
(※ 教職員の評価が高く、他の評価者の評価が低い項目)

3 課題解析結果

- (1) の視点・・・該当課題なし
- (2) の視点・・・【質問項目1、2、6、8、9、11】該当
- (3) の視点・・・【質問項目8】該当
- (4) の視点・・・【質問項目5】該当

4 課題に対する改善策

【質問項目1】学校の指導方針は共感でき、特色ある教育活動に満足している。

前年度の3.4ポイントから3.3と0.1ポイント減少。特に職員の評価が2.9ポイントと項目全体の平均3.3を0.4ポイント下回る。職員間での共通理解を確実にし、全員が同じ方向性で教育活動を推進できるようにする必要がある。以下の手立てにより改善を図る。

- 学校経営方針について、4月当初の校長説明を受けた後、7月と12月にそれまでの実践を振り返るための校内学校評価を行う。集計結果を職員間で共有し、それにより、学校経営方針の具現化に向けて、職員が同じ方向性で実践を進めているかを確認し、特色ある教育活動の活性化に取り組んでいく。
- 地域や保護者に対しては、第1回学校支援会議において文書の配付及び説明、学校便りへの掲載(4月中旬に地域に配付)、HPでの周知を継続する。教育活動の様子についても、年間を通して学校便り、学級便り、学校HP等による周知も継続する。

【質問項目2】学校は人権教育を基盤にし、子供の命の大切さや思いやりの心を育てようとしている。

前年度の3.6ポイントから3.5と0.1ポイント減少するも、平均3.3を0.2ポイント上回る。

- 人権教育は、本校のすべての教育活動に通底しており、教育活動全体を通して、命の大切さや思いやりの心を育てる実践に取り組んでいる。いじめについては、「いじめ防止基本方針」(6月20日付ホームページに掲載)を策定し、それに基づき組織的な対応を行う。校内に、管理職、生活指導主任、養護教諭、学年主任等から成る「いじめ防止及び対策委員会」を設置して、いじめの「未然防止」「早期発見」「早期対応」を図る。6月の「いのちを見つめる強調月間」においては、校長講話や全担任による道徳授業の公開、「いのちを見つめる集会」等の取組を通して、教師と子供が命について共に考え、語り合う機会を設けることで、職員一人一人が人権意識を高く持ち、子供たち

の豊かな心情を育んでいく。

○12月の人権集会には、講師として人権擁護委員協議会を招聘し、専門的な見地からの講話等を通して、子供たちの人権意識の向上を図る。

○道徳科の学習のより一層の充実のために、授業に臨む際には教材研究をしっかりと行い、授業の質の向上を図る。また、機会を捉えて研修会に参加し、授業や評価についての研修を深めるとともに、校内で伝達講習を行い、職員全体の研鑽を図る。

【質問項目5】吉井南小学校の先生は、子供や保護者の相談に誠意を持って応じている。

昨年度と今年度の全体の平均は3.5ポイントと変化はないが、児童の評価が教職員の評価を0.3ポイント下回る。児童が抱える不安や悩みに、寄り添うことが十分でなかった場面があったと反省する必要がある。個に応じたよりきめ細やかな対応が必要不可欠と考える。以下の手立てにより改善を図る。

○これまで行ってきた教育相談を充実させる。年2回の教育相談の時間はもちろん、教育活動全体を通して、子供の様子をよく観察し、気になる児童へ対応する。そのために、普段からの会話や遊びを通して児童とのコミュニケーションを図り、信頼関係を築くようにする。

○家庭訪問での情報収集や、夏休み前の保護者面談、懇談会での情報交換等を大切に、学校と家庭が、同じ目線、同じ方向性で子供たちを導いていけるようにする。また、必要に応じて家庭と適宜連絡を取り合い、相互理解を深めながら、子供たちや保護者への支援を行う。

【質問項目6】吉井南小学校の先生は、地域の行事を理解し、協力的である。

項目全体の平均が前年度の3.2ポイントから3.1と0.1ポイント減少。かつ、職員の評価は2.7ポイントと項目全体の平均3.1ポイントを0.4ポイント下回る。

○職員終会等において、地域の行事について職員に事前に周知し、可能な範囲での参加を促す。また、放課後子ども教室の活動にも、年間1回以上の参加を促す。

【質問項目7】子供たちは、好ましい友達関係があり、楽しく登校している。

職員の評価が2.8ポイントと項目全体の平均3.3を0.5ポイント下回る。保護者、児童の評価は高いが、職員の評価が低い。自身の指導の反省が垣間見える。以下の手立てにより改善を図る。

○日頃から児童の学校生活の様子をよく観察し、子供たちの表情や言動など、小さな変化を見逃さないようにすることで、問題の早期発見に努める。また、児童理解の時間（木曜日の放課後、年間に9回実施）における情報交換等を継続的に行うことで、児童の人間関係やその背景にあるものを職員全体で理解する。対応する際には、同学年や生活指導主任、管理職等も含めて常に複数で策を検討し、対応する。

○児童の問題行動に対しては、本人や周辺からすぐに情報を集め、状況把握をする。知り得た情報に関しては、同学年や生活指導主任、管理職にも報告・相談をして共有する。よりよい解決の仕方を検討する場を迅速に設定し、対応する。

【質問項目8】子供たちは、返事や明るいあいさつをしている。

項目全体の平均が、前年度の3.0ポイントから2.8と0.2ポイント減少。今年度の全体平均値3.3よりも、0.5ポイント下回り、最も低い評価となる。かつ、職員の評価は2.2ポイントと項目全体の平均2.8ポイントを0.6ポイント下回り、かつ地域の評価も2.5と平均を0.3ポイント下回る。保護者や児童の評価と、地域や職員の評価に大きな開きがみられ、児童の意識の向上が必要と考える。以下の手立てにより改善を図る。

- 毎月の「あいさつ運動」を継続することで、家庭・地域との連携をより強め、あいさつの大切さ、必要性についての啓発を促す。地域の大人や保護者があいさつの手本を示すことができるよう、保護者、地域の参加を増やしたい。そのために PTA 総会や PTA 実行委員会、学校支援会議等、あらゆる機会を捉えて、参加を呼びかけることにより、活動の拡大を図る。また、学校 HP 等での実施の様子についての発信を継続する。
- 児童への啓発として、全校朝会等で返事やあいさつについての講話を行う。講話は生活指導主任等が担当し、年に 3 回程度行う。
- 生活委員会の取組である、毎朝の校門付近でのあいさつ運動や、あいさつが上手にできた子供にあいさつチケットを渡す活動を継続することで、あいさつの実践力を高める。
- 教職員自らが子供たちや同僚、来校者に積極的にあいさつを行い、規範を示す。

【質問項目 9】学校は安全に気を配り、子供の学びを支える環境を整えている。

前年度の 3.6 ポイントから 3.4 と 0.2 ポイント減少。子供たちの安全にかかわる重要事項と認識し、以下の手立てにより改善を図る。

- 職員全員による、月に一度の安全点検を今後も確実に行う。今まで同様、少しでも気になる箇所があれば、複数の目で再度確認し、必要に応じた対策を講じることで、安心・安全な環境づくりを進める。
- 年に一度の地域・保護者と合同の通学路安全点検を継続し、子供たちが安心して登校できる環境を整える。

【質問項目 11】学校や学級の様子を通信等で知らせ、連絡や意思疎通を適切に行っている。

前年度の 3.6 ポイントから 3.4 と 0.2 ポイント減少。学校からの情報発信力をますます高めるために、以下の手立てによる改善を図る。

- 学校便りや学級通信、学年通信等を定期的に発行するとともに、HP を通じて、学校の様子をお伝えする。また、安心・安全メールを活用し、定期的にホームページ更新のお知らせをすることで、学校の様子を周知する。
- 特に健康・安全に関することは、個別にきめ細かく連絡をする。

5 学校支援会議でいただいたご意見

それぞれの改善策について、承認いただいた。以下にいただいたご意見と学校の回答を紹介する。

【ご意見】⇒質問項目 1 について、職員の評価が低いのはどうしてか。

【回答】⇒職員が望むような教育実績を挙げられていないと分析する。

【ご意見】⇒質問項目 5 について、配慮が必要な児童が増えてきたという説明があったが、保護者が学校に相談に来ることはあるのか。

【回答】⇒相談に来られる保護者もいる。保護者へは、丁寧に説明を行っていく。

【ご意見】⇒質問項目 6 について、職員の低評価は謙遜されているところもあるのではないかと。また、日頃の職員の様子を見てみると、児童の対応だけで一杯であると思う。職員が地域の行事に参加することはプラスに働くが、校区外から来ている職員がほとんどで、また、業務だけで多忙な職員に、地域行事への参加を求めるのは無理ではないか。質問項目 6 はなくてもいいのではないかと。

回答⇒職員が地域行事に参加することは、子供たちの地域での様子を知ることができ、また、子供たちも喜ぶため、一定の教育効果が得られるものと考えます。質問項目6については、今後も継続したい。

ご意見⇒質問項目7について。職員の評価が低いのはどうしてか。

回答⇒児童間のトラブルが発生した場合、多様な考え方の保護者に対して、職員には丁寧な説明や対応を求めている。対応が難しいケースもあり、厳しい評価を下していると考えます。

ご意見⇒質問項目8について。朝の元気がない。特定の数名が元気に挨拶するだけで、元気のない子供が多い。睡眠不足もあるのではないかと。また、人を見て挨拶をする子供もいる。

ご意見⇒質問項目8について。地域の人間でも、馴染みのない人に挨拶するのは、戸惑いもあるのではないかと。

ご意見⇒家庭で挨拶をしているのか気になる。今後も繰り返し、粘り強く挨拶をしていくしかない。

回答⇒まずは大人が規範を示すということで、これからも、地域や保護者の皆様の力を賜りながら、改善策に継続して取り組んでいく。

ご意見⇒大雨で佐々川が増水した際に、学校がどの段階で下校させればよいか、その判断材料となるように、水位線を変えてくれと県に働きかけている。予算は取れたということであるが、まだ実現していないので、県に強く要請していく。

回答⇒ご配慮いただき、本当にありがとうございます。

6. 保護者・地域の皆様アンケートより

- 校長先生を筆頭に、地域・保護者に寄り添って対応していただいているので、よい環境だと思います。
- 毎朝、校長先生が、校門や通学路に立って子供達の登校を見守ってくださっているのが安心できます。
- 地域の方を大切に、協力的で交流もあり、とてもよいと思います。
- 担任の先生だけでなく、ほかの先生方や校長先生も子供のことを気にかけてくださって助かっています。子供たちも助け合う姿に感心しています。
- 地域の教育活動は、児童にとってもよい学びの教育だと思っているので、続けてくださると嬉しく思います。
- 地域の方々との関わりを持つことで、子供たちの見守りの目を広げていただいていることに感謝しています。
- 児童一人一人を理解して下さる先生方に感謝しています。
- 親身になって話を聞いてくださり、相談しやすいです。子供に愛情をたくさん持ってください感謝しています。
- 忙しい中先生達には大変感謝しています。
- いろいろな体験をさせていただいたことに感謝しています。残り4か月学校生活を楽しんで欲しいです。
- 本を借りた冊数で、手作りのしおりやバッグがもらえるという喜んでいて、目標ができてよいと思います。
- 学校の生活を親は見れていない部分がたくさんありますが、子どもも毎日よく話しかけてくれるように、先生方の協力により、楽しく登校してくれていると思っています。今後もよろしくお願いします。
- 毎日楽しく登校できている。先生方のご指導のおかげだと思っています。いつもありがとうございます。

す。

○相談したら、些細なことでも担任に聞いてもらえるので安心できています。

○児童一人一人に応じた教育をしていただいていることに感謝しています。

○友達とのトラブルは尽きることがないと思っているが、先生には、その都度、良く対応していただいていると感じています。悩んでいる児童、信号を発している児童が1日でも早く楽しい気分で学校に通えるように、保護者とともにさらに解決に力を入れてほしいです。

○担任の先生は、とても熱心に指導してくださっており感謝しています。

○いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

○給食は、地元のものも使っており、おいしそうです。

○エアコンが設置されると聞いてうれしく思います。

要望・ご意見	学校からの回答（担当者）
あいさつ ・「あいさつをしよう。」との声は聞きます。実際に子供たちに会ったときに、学校ではするが、校外ではない子が多いです。 ・あいさつ運動をしているが、朝の集団登校では、5・6年生が積極的にあいさつができていません。1年生も上の子がしないので、マネして1年生になったとたん、あいさつをしなくなりました。下の子達の見本になるように指導していただきたいです。 ・学校に行ったときに、昔にくらべて、生徒も先生もあいさつをする方が少なくなった感じがします。（保護者側があいさつしたら返すぐらいで、進んでする人が、児童も先生も少ない。）学校全体が元気がない気がします。 ・集団登校中の子ども達の見目は下向き、積極的に挨拶はしてきません。中学生は一人一人しっかりしてきます。どちらかというと無関心な子どもが増えたと思います。	ご指摘いただき、誠にありがとうございます。また日頃より、子供たちへの見守りやご指導ありがとうございます。「あいさつ」は、他者とのコミュニケーションを築き、社会生活を営む上での基本であり、とても大切なものであると本校でも捉えております。しかしながら、ご指摘の通り、学校全体で見ると、「あいさつ」は、本校の課題の一つであります。改善に向けて、生活委員会の子供たちが、朝のあいさつ運動に参加したり、あいさつが上手にできた子供へあいさつチケットを渡したりすることなどに取り組んでいるところです。また、学校通信「くすのき」第21号（令和元年1月15日付）でもお知らせしましたように、本校の一徳運動を、「笑顔であいさつ おうちで お外で 学校で」にリニューアルし、吉井町ひまわりスタンプ会様のご厚意により、横断幕を制作いたしました。子供たちの意識を高め、実践させるためには、先ずは大人が範を示すことが大切であると考えます。学校においては、先ずは職員が範を示すことができるように、気持ちのよいあいさつを心掛けてまいります。また、家庭や地域におきましては、保護者や地域の皆様が範を示してくださることで、子供たちの「あいさつ力」を育てていけるものと考えます。これからも保護者や地域の皆様のお力を賜りながら、改善に向けて努力してまいります。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
インフルエンザ対策 ・これから感染症、インフルエンザ等の季節を迎えます。家庭で、手洗い・うがいの指導をしているが、学校でも児童への声かけ、対策があったらいいと思いました。	ご意見をいただき、誠にありがとうございます。重ねて、ご家庭での日頃からのご指導に感謝申し上げます。感染症対策につきましては、市内の小中学校の感染状況がわかる「感染症情報システム」に記載さ

	れている情報を職員間で共有し、それを踏まえて各学級での「手洗い」「うがい」「換気」を実践しております。特に、感染が広がると予想される時期や校内での罹患者が確認された際には、保健委員会の児童による「手洗い」「うがい」「換気」を促す放送を休み時間に行ったり、養護教諭による「さわやかだより」号外（本年度は令和2年1月17日付配付）を発行したりするなどして、インフルエンザ等の感染症予防に取り組んでおります。また、毎年1月から2月下旬にかけて「お茶うがい」にも取り組ませております。これからも、ご家庭のご理解とご協力を賜りながら、インフルエンザ等の感染症対策に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。
お便り・通信 ・学年によっては、便りが極端に少なく行事などの前はどのようにしてよいのか不安なこともあります。	ご不便をおかけしましたこととお詫び申し上げます。行事については、学年便りや学級便りのほか、学校からのお便りやホームページ等を通じてお知らせしております。便りの発行につきましては、適切な情報をお伝えするよう指導をいたします。これからも、速やかで正確な情報発信を心掛けてまいります。詳細について、不明な点等がございましたら、学校までご一報いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。
親子健康学習会 ・講話のテーマはとて素晴らしいと思いましたが、内容は先生方向けだったと思います。今一番取り上げてほしいテーマだったのに、子供達は聞かずに下校し、保護者も帰る人が多いと予想はつきます。残念でした。子供たち向けの話を親も一緒に聞く形式にしたほうがよいと思います。子供たちの方が実際に接する時間が多いので、具体的に例を挙げて対応の仕方や特性に対する理解の話をしたほうがよいと思います。	ご意見をいただき、誠にありがとうございます。 今回は、子供たちにはそれぞれに様々な特性があることを理解していただくとともに、子供たちとの関わり方についての学びの機会を設けたいとの思いから、大人を対象にした講演会の形にさせていただきました。趣旨をご理解いただき、今後の子供たちへの指導につなげていければと考えております。一方で、ご意見にもありますように、子供たちを対象として、他者への理解や関わり方について学ぶ学習の機会を設けることは大切であると考えます。子供たちの実態や成長段階に応じた実践ができるように、研究を進めていきたいと考えております。
学校評価 ・個別に対応できることと無責任発言を防ぐために、学校評価は記名式にし封筒に入れている学校もあると聞きました。南小でも取り入れてはどうでしょうか。 ・こんなアンケートをとって何の意味があるのかと毎回思います。何が改善できているのでしょうか。	ご意見をいただき、誠にありがとうございます。 学校評価は、「学校教育法」「学校教育法施行規則」に定められており、各学校は法令上、「①教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること、②保護者などの学校の関係者による評価（「学校関係者評価）」を行うとともにその結果を公表するよう努めること、③自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者に報告すること」が必要です。また文科省による「学校

	評価ガイドライン」に「自己評価を行う上で、児童生徒や保護者、地域住民を対象とするアンケートによる評価や、保護者等との懇談会を通じて、授業の理解度や保護者・児童生徒がどのような意見や要望を持っているかを把握することが重要である。」とあります。それにより、本校でも児童・保護者アンケートを行っています。加えて、上記ガイドラインには「アンケート等の実施に当たっては、匿名性の担保に配慮」するように求められていること、普段、学校への意見・要望があっても伝えることができない状況も考慮して、匿名による全児童・保護者アンケートを実施しております。ご理解をよろしくお願いいたします。 改善が保護者の皆様に実感できにくい状況につきましては、真摯に受け止めてまいります。その改善のためにも、アンケート等でご意見を賜ることが大切だと考えます。今回も、反省すべき内容につきまして具体策を立て、地道に実践を重ねてまいります。ご理解をいただければ幸いです。また、評価結果及び具体策等は、今後、学校からの文書やホームページで公開してまいりますので、ご確認いただきますようお願いいたします。なお、学校評価の在り方等につきましては、研究・検討し、不断の改善を図ってまいります。
家庭学習 ・宿題や自主学習の提出や取り組む時間は、学年内でもかなりばらつきがあるようです。自主学習は、宿題ではないのでやらなくていいという意識が子供にはあるようで、家だけでなくきちんと学校でも話してもらいたいです。	ご意見をいただき、誠にありがとうございます。 家庭での学習は、学習の基礎・基本をしっかり身に付けさせるという目的のほかに、学習する習慣を身に付けさせるという目的もあります。生涯を通じて学び続ける力を育むためにも、小学生の時期に、家庭学習に取り組ませることはとても大切です。特に自主学習につきましては、自ら課題を設定し、主体的に取り組む力や習慣を付けさせる上で、大変効果的であると考えます。従って、子供たちが率先して自主学習に取り組めるように、成長段階に合わせた内容の提示や取り組みませ方について、学校でも適宜指導を続けてまいります。ご家庭でも、子供たちの頑張りをほめていたり、アドバイスをさせていただいたりすることが、学習への意欲付けになると思います。よろしくお願いいたします。 なお、学習に取り組む時間については、夏休みに配付しました「学びのガイドブック」にお示ししております。下記にも掲載いたしますので、参考にしていただければ幸いです。 1年生・・・15分以上 2年生・・・30分以上 3年生・・・45分以上 4年生・・・60分以上 5年生・・・1時間15分以上

言葉遣い ・先生もですが、子供たちの言葉遣いが気になります。しょうがない面があるのでしょうか、ひどすぎる言葉を学校で耳にしました。 ・学校では“さん”づけで名前を呼び合っているのに、学校以外では呼び捨てで呼び合う子が多い。それなら学校では“ちゃん”“くん”で呼び合ってもいいのではないかと思うのですが。その必要性を私たちも知りたいです。	6年生・・・1時間30分以上 ご指摘をいただき、誠にありがとうございます。 言葉遣いについては、教育活動全般を通じて指導をしているところです。あいさつ同様、先ずは大人が範を示すことが大切であり、学校では教員がきちんとした言葉遣いで接することができるように努めてまいります。そのうえで、時と場に応じた言葉遣いや相手を慮った言葉遣いなど、今後も機を捉えて子供たちに指導を重ねてまいります。 相手の名前に敬称を付けることについては、相手に対する敬意や礼儀の観点からも大切なことであると考えます。本校では、すべての学年で「さん」付けを指導しておりますが、十分に定着していない面もありますので、今後も継続して指導してまいります。 なお、ご意見にもありますが、教員の言葉遣いに関して、不快な思いをさせていただきましたこと、深くお詫び申し上げます。言葉遣いについて教職員に指導を継続すると共に、個々の事案につきましては、確認し指導いたしますので、具体的にお知らせいただけましたら幸いです。
児童間の関わり ・児童トラブルがあったときなど、双方の言い分を聞いて欲しいときがあります。親切心で行った結果トラブルになることもあるので、一方的に片方の児童の味方をするのではなく、相手児童にも寄り添って欲しいです。児童がどうつきあっていけばよいか迷い困るのではないのでしょうか。	ご意見をいただき、誠にありがとうございます。 児童間のトラブルについては、日頃から、双方の言い分をよく聞いて指導をするようにしております。将来社会に出ていく子供たちのそれぞれの成長を期待し、多様な人々が社会を生きていくための素養を養っていけるように、今後もお互いが納得できるような解決方法を模索し、継続していきたいと思っております。 学校での指導につきましては、お気づきの点等がございましたら、個々の事案に関しまして、ご一報いただけましたら幸いです。
指導のありかたについて ・今のご時世なのか、先生方は優しすぎると感じています。体罰とすぐ騒がれたりもしますが、もっとしっかり怒るときがあってもいいのではないかと思います。忘れ物が減らない一つの要因かとも思います。 ・授業中にふざけた児童がいたからといって昼休みに授業をするという話を聞きます。 ・HRが終わるのがいつも遅い学年があり気になる。 ・担任の学級児童を見る目がとても冷ややかでした。児童に担任の思いは伝わっているのでしょうか。	ご指摘をいただき、誠にありがとうございます。 体罰は、学校教育法で禁止されている行為であり、本校でも体罰禁止の指導を徹底しております。児童の健やかな成長のためには、厳しい指導が必要な場合もございますので、児童の心身に苦痛を与えることがないよう配慮しながら、心に響く毅然とした指導を行ってまいります。指導方針、今後も繰り返し確認しながら徹底を図ってまいります。 昼休みの授業に関しましては、担任に聞き取りを行いました。が、事実の確認には至りませんでした。ただし、昼休みの時間を使って、補習や課題を完成させること等を目的として、個別指導を行うことはござい

・指導方針は学校の方針というよりも先生個人の指導方針のようで偏っていると感じます。信頼関係が築ける先生と、そうでない先生がいます。共通理解がされていないと思います。指導方針など、全先生が共通理解をし、徹底してほしいです。	す。子供たちの学力向上や学習習慣の定着をねらいとして行っております。ご理解いただければ幸いです。 ホームルームの終了がいつも遅い学年があることにつきましては、担任に聞き取りを行いました。事実の確認ができませんでした。下校時刻につきましては、本校では、 5校時の学年・・・15：05（水・木14：25） 6校時の学年・・・16：05（水・木15：25） としております。可能な限り、定めた時刻を守るように努めておりますが、下校指導が長くなり、定刻を過ぎての下校になってしまったことにつきましては、心よりお詫び申し上げます。恒常的に下校時刻が遅くなる場合につきましては、指導をいたしますので、学校までお知らせいただけると幸いです。 本校の職員は、全員が使命感をもって教育実践を進めております。信頼を損なう言動と感ぜさせましたこととお詫び申し上げます。個々の事案につきましては、確認し指導いたしますので、具体的にお知らせいただけましたら幸いです。
児童の様子 ・日頃の先生方のご苦勞を目の当たりにしています。子供たちは、いつから怖いもの知らずになってしまったのでしょうか、不思議です。一度、中学校、小学校、幼・保育園など教育に携わる先生方の意見を聞いてみたいですね。 ・何度か授業参観に行かせていただきましたが、子供たちの様子を見てると補助の先生に付いてもらった方がよいのでは思うことがありました。	ご意見をいただき、誠にありがとうございます。 個に応じたきめ細かな指導はティーム・ティーチング、グループ学習、個別学習などその充実が喫緊の課題です。補助教員につきましては、市・県からの加配が限られている中、優先順位を考えながら工夫をして配置をしておりますが、十分ではない状況です。昨年中にお願いいたしました保護者の皆様による見守りにつきましては、随時受け付けますので、ご協力くださる方は、教頭までご連絡くださいますようお願い申し上げます。
集団登校・下校 ・校門下の横断歩道で、児童が横断する際に、さしかかって一時停止した車に、譲って先に行かせようと働きかける行動が見られます。歩行者が優先なので先に横断して欲しいです。逆に危険であると感じています。	いつも児童の安全な登校にご協力いただきありがとうございます。原則として、児童の判断による横断を指導しております。しかし、児童には判断が難しいと思われる場合は、教職員等が整理をする場合がございますが、ご指摘の通り、歩行者を優先してまいります。なお、児童の列が長い、微妙な間隔で空いているなどの状況で、運転者を長く待たせすぎていると判断した場合、先に通行をお願いする場合がございます。ご理解いただけると幸いです。
集団登校・下校 ・登校時、校門付近もそうだが、幼稚園の入り口にもどなたか先生が立ってくれたら助か	ご指摘をいただき、誠にありがとうございます。 子供たちの安全を考え、集団登校が実施されており

ります。朝の車の多いため、防犯のため、吉井バス停付近もお願いしたいです。 ・下校時間が学年によってバラバラなのでなるべく同じ時間に終わるようにしていただきたい。同じ方向に帰る児童と一緒に帰った方が防犯にもなると思いますので検討をよろしくお願いします。 ・集団下校時、先生方が途中まで付いてきてくださる間はいいのですが、先生方が見えなくなると高学年は先に帰ったりして中学年や低学年の児童を置いて、結局はバラバラに下校になっているようで、せっかくの集団下校の意味がないと思います。できれば集団で下校をして欲しいので、声かけや指導をしていただきたいです。 ・登校班で来ない子供さんがいます。朝がとにかく心配です。(子供達は協力して登校しているようですが。)	ます。地域や保護者の方にもご協力いただき、朝の見守りや立哨活動を実施していただいております。年に4回の交通安全運動(春の全国交通安全運動、夏の交通安全週間、秋の全国交通安全運動、年末の交通安全県民運動)の期間には、可能な範囲で職員が交代で立哨活動を行っておりますが、登校後の子供たちの受け入れや授業の準備等があり、年間を通じて立哨活動を行うのは困難であることをご理解いただけたらと思います。昨年度、文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会より、学校における働き方改革についての素案が出されました。その中に、「基本的に学校以外が担うべき業務」が示されており、その一つに「登下校に関する業務」があり、登下校については、「地方公共団体や保護者、地域住民など『学校以外が担うべき業務』」とあります。本校で、今すぐに登校の見守りを完全にやめることは現実的ではありません。教職員による見守りも一定継続してまいります。今後も、子供たちの安全のために、地域や保護者の皆様のお力を賜りたいと存じます。 下校時刻につきましては、教育課程(カリキュラム)編成の基準である「学習指導要領」を基準に編成したカリキュラムに基づいて設定しております。従って、学年により下校時刻が異なることにつきましては、ご理解いただけたらと思います。子供たちには、できるだけ複数で下校するように指導しているほか、日頃から交通安全指導や不審者への対応について指導をしているところでございます。不審者への対応につきましては、江迎警察署にご協力いただき、1月に不審者対応避難訓練を実施しました。各家庭におかれましても、複数での帰宅や安全面について、お子様への声かけをお願いいたします。 集団下校は月に一度実施しております。ご意見にありますように、途中からバラバラになってしまうことにつきましては、集団下校の意義や安全面の確保を踏まえながら、再度子供たちへの指導を重ねてまいります。 何らかの事情で集団登校への参加ができない場合、保護者を通じて、同じ登校班の保護者へ連絡を入れていただけたらと思います。また、病欠や遅刻などにつきましても、同じ登校班の保護者や、集合場所に集まっている子供たちへ連絡を入れていただくよう、お願いいたします。
卒業式 ・昨年度、保護者として卒業式に出席しました。卒業証書授与の際、児童に合わせて保護	ご意見をいただき、誠にありがとうございます。式中の保護者の皆様の立ち居振る舞いについて

者も一緒に起立し、礼をしましたが、果たしてそうすべきだったのか今でも疑問に思っています。事前に連絡網で「保護者も起立、礼をするように」と連絡が廻ってきました。「すべき」ではなく、「そうしなくてもよい」くらいの雰囲気があったらと思いました。ビデオ片手に起立をし、証書授与が終わったら着席する保護者の姿もありました。厳かな雰囲気が一瞬変わったように感じました。	は、学校よりお願いすることはございません。厳かな雰囲気の中、お子様の晴れの姿をしっかりと見届けていただきたいと願っております。素晴らしい卒業式になるよう、職員一丸となって努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。 なお、PTA 会長からは、次のようなコメントをいただいております。 「本来は、学校と地域の皆さんに感謝の気持ちを伝えるという趣旨でお願いをしておりましたが、その趣旨が伝わらないまま行動のみをお願いする形になっていました。今後は、そのような趣旨があることを伝えるとともに、強制するものではないということもお伝えするようにします。」
2学期制 ・吉井南小学校に限らず2学期制のメリットが分かりません。	ご意見をいただき、誠にありがとうございます。 佐世保市では、平成15年2月の「佐世保市の教育を考える市民会議」から「小・中学校における2学期制の導入」についての提言を受け、平成16年度からモデル校を設置して検討を重ね、平成18年度から市内全小中学校において2学期制を導入しています。本市における学校2学期制導入の趣旨は、1つの学期の期間が長くなる中で、授業や学校行事のあり方などについて創意工夫し、子どもたちとのふれあいの時間を確保するとともに、授業時間を確保し、指導と評価の一体化のもと、きめ細かな学習指導の充実を図りながら、子どもたちが豊かな心と確かな学力を身に付けることができるようにしていくことを目指したものです。本校でも、市の制度を生かしながら、児童生徒と向き合う時間や面談等の教育相談の時間の充実、教育課程等の見直しによる授業時数の確保、長期スパンでの学習指導や評価の充実などを図っております。メリットを実感いただけなかったこと、十分にお伝えできておりませんでしたことを反省し、さらなる指導の充実に努めてまいります。 なお、佐世保市教育委員会はこの度、学期制を3学期制に改める方針を決定いたしました。理由といたしましては、「2学期制による『確かな学力の育成』に至らなかったこと」「3学期制を望む保護者の意見が大きかったこと」等です。今後2年間程度の準備・周知期間を設け、令和4年度からの3学期制の導入となることを申し添えます。
「南っ子発表会」について ・ふるさと先生コーナーをなくし、発表だけにしたことはよかったです。移動は忙しかったのですが、今回の形がよいと思いました。	ご意見をいただき、誠にありがとうございます。 昨年度までの「南小まつり」から「南っ子発表会」へとスタイルを一新した理由につきましては、学校だ

ただ、低学年には見学者との間が近すぎて、少しざわついており、ちょっとかわいそうでした。

- ・体育館で、全校児童と一緒に各学年の発表を共有できると、より感動や一体感が生まれるのではないのでしょうか。
- ・始まりの挨拶を放送だけにしたことは、表情が見えなかったし、一体感も感じられずよくなかったです。その分終わりの全校合唱は、一体感があり、迫力もありました。
- ・今年度の内容であれば、平日の授業参観としての実施・発表で十分だと思います。3回の発表は必要ないと思います。我が子以外の発表をわざわざ移動してまで見に行きません。今までどおり、体育館でのステージ発表が、見に来る人にとっては、全学年が見られていいと思います。1回の発表だけで、失敗したとしても、それもいい思い出になるのではないのでしょうか。
- ・毎年南小まつりはワンパターンで個性もなくつまらないです。今回の発表の仕方はよかったと思いますが、内容が先生にさせられている感で、子供達がもう少しやりたいことや伝えたいことを、先生とみんなで協力してできたらよいのではないかと思います。授業参観と変わらないので・・・。
- ・各学年時間帯を分けてあったのは、兄弟などおられるところは良かったと思いますが、以前のように劇や演奏など、子供達の生き生きとした姿を見たかったです。

より「くすの木」第13号(R1. 9.12付)にてご説明させていただきましたように、来年度からの新学習指導要領全面実施に備えた「授業時数の確保」と「主体的・対話的で深い学びの実現のための多様な表現の機会の保障」です。

今回の実施にあたり、「南小まつり」を発展的に「南っ子発表会」に繋げることで、時代の要請に合った、多様な表現方法の選択がしやすくなりました。ポスターセッションなどのこれまではなかった発表も見られるなど、各学年の発達段階に応じた様々な形態での発表が可能となりました。これについては、一定の成果が得られたと考えております。

体育館から各教室等へと会場を変更したことについてのご意見をいただきましたが、プレゼンテーションやポスターセッション、アクティビティ、お店屋さん方式、劇による発表等、多様な表現方法を選択し、実施するためには、各教室等での発表が適していると判断しております。これまでの体育館での発表に慣れ親しんだ方にとりましては、多少違和感を感じられたことと推察いたしますが、意図をご理解いただけましたら幸いです。

また、各教室等での発表となりますと、必然的に発表者と参観者との距離が近くなります。ざわつきが気になる場面もあったとのご意見をいただきましたが、子供たちの様子を間近で見ることができるという利点があること、また、参観者にその場で感想を述べていただいたり、発表に参加していただいたりするなど、発表の仕方を工夫することで、今後より充実した内容にしていくことも可能であると考えます。距離感の近さを長所に変えていくように努めてまいります。

始まりの挨拶を放送にしましたのは、子供たちの移動の時間をなくすことで、①余裕をもって準備ができる ②すぐに発表に移ることができる ③時間の短縮になる という理由からでした。おかげさまで、当日は、スムーズに開始することができたと考えております。

来年度の南っ子発表会がよりよいものになるよう、時程や発表の内容等、工夫できるところは工夫し、改善すべき点は改善しながら、子供たちが主体となって創り上げていく、そのような南っ子発表会にしていきたいと考えております。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。